

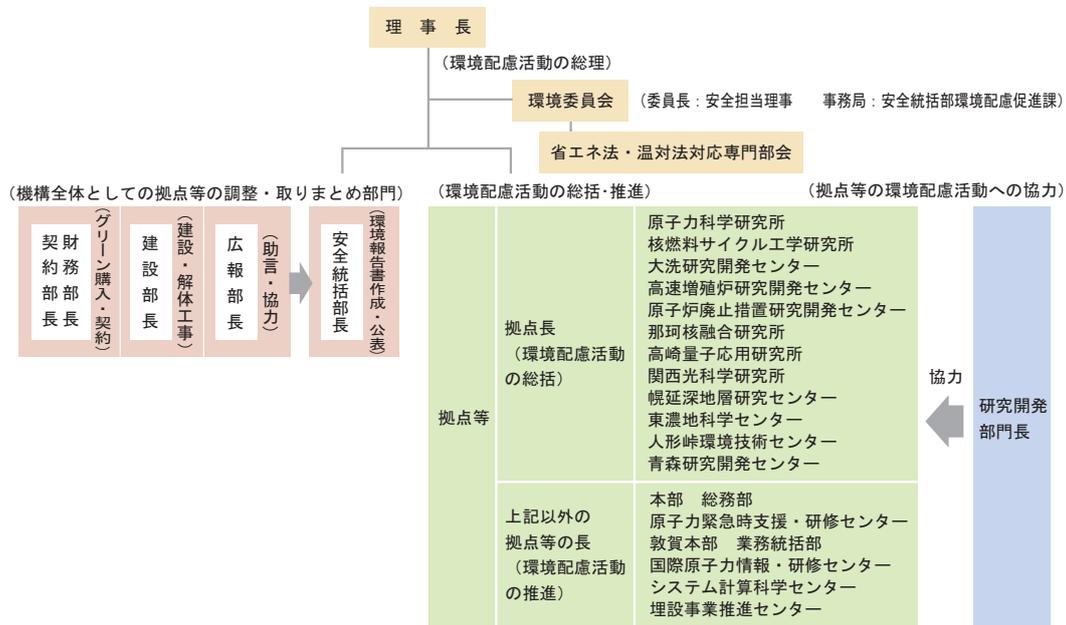
環境配慮活動の取組

原子力機構では、理事長の環境基本方針の下、環境配慮活動に積極的に取り組んでいます。また、六つの研究開発拠点では環境マネジメントシステムに関する国際規格（ISO14001）の認証を取得し、その手法に沿った活動を継続して実施しています。

2010年度環境配慮活動のまとめ

原子力機構では、組織全体で環境配慮活動に取り組むため「環境配慮管理規程」を制定するとともに、安全担当理事を委員長とする「環境委員会」を設置しています。理事長が毎年度、環境基本方針（P.3参照）を定め、これに基づく環境目標と年度計画を立てて、各拠点の担当者からなる「環境配慮活動に係る担当課長会議」等を活用して計画的な環境配慮活動に取り組んでいます。また省エネルギーや温暖化対策等に関する事項については、各拠点のエネルギー管理員等から構成する「省エネ法・温対法対応専門部会」にて専門的に取りまとめています。

環境配慮活動体制図（2011年3月末）



2010年度環境基本方針の下、2010年度環境目標では「省エネルギーの推進」、「省資源の推進」、「廃棄物の低減」、「温室効果ガス排出量の削減」の4項目について削減率等の具体的な目標を掲げました。各拠点等ではこれらを反映してそれぞれの計画等を策定し環境配慮活動を推進しました。この結果、2010年度の目標はほぼ達成することができました。

2010年度環境目標と結果のまとめ

項目	管理尺度	目標	結果
省エネルギーの推進	エネルギー消費原単位	2010年度末に、2009年度比で1%以上削減	1.3%削減（P.37参照） [エネルギーの使用に係る原単位の対前年度比 98.7%]
省資源の推進	水の使用量	2010年度末に、2009年度比で1%以上削減 (評価の前提条件：施設の新増設や新たな運転・操業等に伴う水使用量の増加分は除く。)	0.3%増加（P.42参照） [190.9万m ³ （2010年度）/190.3万m ³ （2009年度）]
廃棄物の低減	—	古紙リサイクルの一層の推進	2010年度の「古紙再生量+古紙有価物払い出し量」は2009年度比で約2.8%増加（P.45参照） [402t（2010年度）/391t（2009年度）]
		分別回収の徹底と有価物の回収	2010年度の有価物の払い出し量は2009年度比で約2.5%減少（P.45参照） [1,619t（2010年度）/1,661t（2009年度）]
		高濃度PCB廃棄物の計画的な処理	2010年度に原科研、サイクル研、大洗の高濃度PCB廃棄物の一部を処理（P.44参照） ・原科研：高圧コンデンサ 10台、・サイクル研：高圧コンデンサ 2台 ・大洗：高圧コンデンサ 9台、リアクトル 2台
温室効果ガス排出量の削減	温室効果ガス排出量	2010年度末に、2009年度比で1%以上削減	22%削減（P.38参照） [33.3万t-CO ₂ （2010年度）/42.5万t-CO ₂ （2009年度）]

環境配慮活動研修会

各拠点で推進している環境配慮活動の促進支援、活性化、スキルアップを図るため、毎年、環境配慮活動研修会を行っています。2010年度についても外部講師を招き5拠点を対象に開催し、計101名が参加しました。

2010年度は各拠点に共通的な話題（環境配慮促進法、環境配慮活動概論、事例紹介）のほかに拠点毎の独自課題や、環境マネジメントシステムについても話題としました。



環境配慮活動研修会

環境配慮研修会の開催（2010年度）

開催拠点	開催日	概要	参加人数
幌 延	9月 3日	環境概論、法令遵守(水質汚濁防止法、土壌汚染対策法)、事例紹介、環境マネジメント	13
高 崎	9月17日	環境概論、法令遵守(水質汚濁防止法、家電リサイクル法)、事例紹介、環境マネジメント	37
ふ げ ん	10月25日	環境概論、法令遵守(廃棄物処理法、大気汚染防止法、PCB特別処置法、PRTR法)、事例紹介、環境マネジメント	22
東 濃	10月28日	環境概論、法令遵守(水質汚濁防止法、廃棄物処理法)、事例紹介、環境マネジメント	15
人 形	11月19日	環境概論、法令遵守(廃棄物処理法、大気汚染防止法)、事例紹介、環境マネジメント	14

ISO14001 の認証取得状況

原子力機構においては、6拠点において環境マネジメントシステムに関する国際規格（ISO14001）の認証を取得しており、定期的に更新が行われています。なお、自己宣言事業所に移行している拠点もあります。

環境に配慮したサプライチェーンマネジメント¹⁾等の状況としては、グリーン購入・調達²⁾を進めています。これに加えて、発注時に廃棄物の低減、省エネ・省資源等、環境に配慮した機器の製作、使用の協力を受注先に依頼しています。

ISO14001 認証取得状況（2011年3月末）

拠点名	活動参加人数	登録の主な業務内容	最新更新日	認証取得日
サイクル研	2,500	プルトニウム燃料の開発、使用済燃料の再処理技術の開発、高速炉リサイクル技術の開発、放射性廃棄物の処理・処分技術の開発など核燃料サイクル全般にわたる技術開発	2011年 3月22日	2002年 3月22日
大 洗	1,300	高速増殖炉サイクル、高温ガス炉及び軽水炉の高度化の研究開発	2009年 6月28日	2000年 6月28日
高 崎	250	大型照射施設や各種加速器による放射線等を利用した環境保全技術、バイオ技術、極限材料・機能材料の研究開発	2008年 7月13日	2005年 7月13日
東 濃	140	地層科学研究及び関連施設の建設・維持	2008年 9月10日	2002年 9月25日
ふげん*	270	新型転換炉の廃止措置に係る技術開発	2009年12月22日	1999年12月 9日
人 形*	320	ウランの濃縮の技術開発、施設・設備の解体、除染、減容化技術開発及びウラン探鉱、採鉱に使用してきた関連施設の維持	2009年 2月 9日	2000年 2月10日

* 自己宣言事業所（ふげんは2006年12月26日に、人形は2009年2月9日に自己宣言に移行し、自己宣言を継続中。）

1) サプライチェーンマネジメント（SCM：Supply Chain Management）：商慣習の見直し、電子商取引の推進、取引単位の標準化等による企業間連携を通じて、生産から消費までの情報と物の流れを効率化し、消費者ニーズを反映した商品をスピーディーに適正な価格で提供するための仕組みのことです。

2) グリーン購入・調達：市場に供給される製品・サービスの中から環境への負荷が少ないものを優先的に購入することです。